

17

おきな 翁の祭見物

『十訓抄』

学習課題

助動詞⑤

推量「む・むず・べし」

昔、西八条の舎人なりける翁、賀茂祭の日、一条東洞院の辺に、「ここは翁が見物せむずる所なり。人、寄るべからず」といふ札を、暁より立てたりければ、人、かの翁が所為とは知らず、「陽成院、物御覽ぜむとて立てられたるなめり」とて、人寄らざりけるほどに、時になりて、この翁、扇ひらき使ひて、したり顔なる気色にて、物を見けり。人々、目をたてけり。

得意そうな
見つめていた

陽成院、このことを聞こしめして、件の翁を召して、院司にて問はせられければ、「歳八十になりて、見物の志、さらに侍らぬが、今年、孫にて候ふ男の、内蔵寮の小使にて、祭を渡り候ふが、あまりに見まほしくて、ただ見候はむには、人に踏み殺されぬべくおぼえて、やすく見候はむために、札をば立てて侍る。ただし、院の御覽ぜむ由は、まったく書き候はず」と申しければ、「さも

あること」とて、御沙汰なくて、許りにけり。

普通に

あること」とて、御沙汰なくて、許りにけり。

あること」とて、御沙汰なくて、許りにけり。

問1 語句 破線部A～Cの本文中での意味を答えよ。(活用語は終止形でよい。)

A	B	C
---	---	---

各1点

問2 文法 傍線部①・②の「む」の文法的意思として、最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えよ。

- ア 推量
- イ 意志
- ウ 勧誘・適当
- エ 仮定・婉曲

①
②

各2点

問3 文法 次のア～エの「む」「め」のうち、傍線部①・②の「む」と同じ文法的意思のものそれぞれ選び、記号で答えよ。

- ア われこそ死なめ。
- イ とくこそ試みさせ給はめ。
- ウ つれづれわぶる人は、いかなる心ならむ。
- エ 一人歩かむ身は、心すべきことにこそ。

①
②

各3点

問4 波線部について、次の問いに答えよ。

(1) 文法 例にならって品詞分解せよ。

例 名詞 助詞 動詞 見る 一 行上二段 連用形 助動詞 けり 過去 終止形 見 けり

6点

問5 内容 本文の内容に合致するものを次の中から二つ選び、記号で答えよ。

- ア 人々のうわさでことの真相を知った上皇は激怒した。
- イ 翁は上皇の名をかたつてゆったりと祭の見物をした。
- ウ 人々は翁の祭見物している姿を見て驚きあきれた。
- エ 翁は若いころから欠かさず祭見物を続けていた。
- オ 翁は孫が行列に参加するので祭を見物したく思った。

各5点

(2) 解釈 現代語訳せよ。

--

9点

復習問題

1 次の各文の()内に、「たり」「り」のどちらを用いるべきかを判断し、適当な形に活用させよ。

2 燕の巣くひ()ば、告げよ。

3 次の各文の傍線部の助動詞の文法的意思を答えよ。

4 このわたりに見知れる僧なり。

③	①
④	②

- 語注
- * 舎人―天皇や貴族などに仕える雑人。
 - * 賀茂祭―上賀茂神社、下鴨神社の祭。一条通は多くの見物でにぎわった。
 - * 陽成院―陽成上皇。
 - * 院司―上皇の御所に仕えた役人。

文法 攻略の

アクセス17 「む・むず・べし」 推量以外の働きとその識別

助動詞	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型	接続
む	(ま)	○	む	む	○	○	四段型	未然形
むず	○	○	むず	むずる	○	○	サ変型	未然形
べし	べから	べかり	べし	べきる	べけれ	○	形容詞型	終止形
								サ変型連体形

- ※ 「むず」は「むとずす」がつまつた形。
- ※ 「む・むず」の意味は「スイカカエテ」(推意動仮婉適)で覚える。
- ※ 「べし」の意味は「スイカトメテ」(推意可当命適)で覚える。